

三浦半島のオオハクウンラン

山 内 好 孝

Vexillabium fissum F, MAEKAWA Recorded from Miura
Peninsula, Kanagawa Prefecture

Yoshitaka YAMAUCHI

はじめに

神奈川県植物誌調査会(1986)によると、県内のハクウンラン(*Vexillabium nakaianum* F. MAEKAWA)の産地として大山、厚木、清川、山北、箱根があげられている(図1)。現在までの分布地は、県西部に偏在しているが、筆者はかつて東京都日野市にウメガサソウが自生することをヒントに逗子市神武寺において本種を見出した経験から、ハクウンランも三浦半島に自生する可能性があるのではないかと考え、注意を払っていた。

オオハクウンランとの出会い

1986年8月8日に、植物誌調査会三浦ブロックの合同調査が行われた。葉山町長柄橋から森戸川に沿って二子山に登り、東逗子駅に至るコースであった。筆者は、コースの終わり頃、オオシマザクラやスダジイの混交したうす暗い林(逗子市桜山)に入り、ミヤマウズラの写真を写そうとした。その林の林床にはヤブランなどに混じってミヤマウズラが点々と見えたが、まだつぼみの状態であった。諦めて林を出ようとした時、どこからともなくいい香りがしてきて、一瞬ランだと思った。暗い林床を足元から周囲へ目を向けると、白花をつけた4本のランが見つかった。このランを地下茎を残して採集し、持ち帰った。

現場ではこのランの同定ができなかったので、一本を浜中義治氏に托して、県立博物館の大場達之氏に届けた。筆者が前川(1975)によって調べたところではハクウンランに似ているが、これとは異なる種類であるという印象を持った。

大場達之氏の同定結果は、オオハクウンラン(*Vexillabium fissum* F. MAEKAWA)というものであり、県内では初めての記録となる種類であった(図3)。

ハクウンランとオオハクウンラン

ハクウンラン属はラン科の小形の多年草で、我が国には2種を産する。最も広く分布するハクウンランは白雲蘭で、もと東京大学の演習林のあった朝鮮慶尚南道白雲山で採集されたものに、中井猛之進博士が名づけられたという。発見は他のラン科植物に比べて比較的遅いが、アリドオシランに似ているので、それと長く混同されてきたことによるという。ハクウンランは本州北部のヒバ林から、九州北部の常緑、落葉樹混交林に生えるやや小形の地生ランで、根は生えず、分枝した地下茎から茎を伸ばし、8月頃、花序を作る。花序には1~4花をつけ、花は白色、長方形で中央がへこんだ唇弁が特徴的である。側がく片の長さは4.5~5mm。葉は卵円形で鋭頭、長さは3~7mm、幅2.5~7mmで茎の下部に2~4葉をつける。

一方、オオハクウンランは、伊豆七島の利島、新島、三宅島、御蔵島で確認されている種類で、葉は長さ9~13mm、幅8~11mmでハクウンランよりやや大きく、形は卵状楕円形で、両端は円形か鈍頭で3脈があり、側がく片の長さは5~6mm、花序には白の花をつける。染色体数も異なり、ハクウンランが $2n=26$ 、オオハクウンランが $2n=40$ である。

現在まで、島しょ部のみから知られていたオオハクウンラン(図2)が三浦半島で記録されたことは、特筆すべき知見であり、ここに報告した次第である。

文 献

- 前川文夫 1971 原色日本のラン、誠文堂新光社
神奈川県植物誌調査会 1986 神奈川県植物誌分布図集—シダ類・裸子植物・単子葉類
里見信生 1982 ラン科。日本の野生植物Ⅰ、平凡社
(神奈川県植物誌調査会)

Vexillabium nakaianum F. Maekawa



図1 神奈川県におけるハクウンランの分布
(神奈川県植物誌調査会による)

Vexillabium fissum F. Maekawa



図2 神奈川県におけるオオハクウンランの分布



図3 オオハクウンラン 逗子市桜山 61. 8, 8